令和６年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　みその福祉会

特別養護老人ホーム　ケアタウン成増

デイサービスセンター　ケアタウン成増

ヘルパーステーション　ケアタウン成増

居宅介護支援事業所　ケアタウン成増

成増地域包括支援センター

目　　次

１．社会福祉法人みその福祉会

（１）事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

（２）法人経営理念・・・・・・・・・・・・・・・・　１

（３）法人運営理念・・・・・・・・・・・・・・・・　１

（４）職員構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

（５）実習生・研修生受入状況・・・・・・・・・・　２　～　３

（６）ボランティア受入状況・・・・・・・・・・・　３　～　４

（７）防災訓練等の状況・・・・・・・・・・・・・　４

（８）ワーキングチーム・・・・・・・・・・・・・　４　～　５

（９）法人研修・勉強会・・・・・・・・・・・・・　５　～　６

(10)「チーム・Ｆｉｓｈ！」プロジェクト・・・・　６

２．介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

（１）令和６年度を振り返り・・・・・・・・・・・　６

（２）入居者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・　６　～　７

（３）行事の実施報告・・・・・・・・・・・・・・・　８　～　９

（４）食事行事の活動報告・・・・・・・・・・・・　９

（５）その他の活動報告・・・・・・・・・・・・・・　９　～　１０

（６）特養各委員会の活動報告・・・・・・・・・・１０

（７）特養クラブの活動報告・・・・・・・・・・　１１

（８）ケアカンファレンスの実施状況報告・・・・　１１

（９）フロア会議実施報告・・・・・・・・・・・・　１１

３．短期入所生活介護（ショートステイ）

（１）令和６年度を振り返り・・・・・・・・・・・　１１　～　１２

（２）ショートステイの居室配置・・・・・・・・　１２

４．通所介護（デイサービス）

（１）令和６年度を振り返り・・・・・・・・・・・　１２　～　１３

（２）利用者状況　実績・・・・・・・・・・・・・　１３　～　１５

５．訪問介護（ホームヘルプ）

（１）令和６年度を振り返り・・・・・・・・・・・　１６　～　１７

（２）ヘルパーステーション活動状況・・・・・・　１７

（３）月別ヘルパー活動状況・・・・・・・・・・　１７

（４）要介護度別活動状況内訳（利用者数）・・・・１８

（５）活動内容内訳・・・・・・・・・・・・・・・　１８

（６）部内研修・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

６.居宅介護支援事業
（１）令和６年度を振り返り・・・・・・・・・・・　１８
（２）事業計画実施状況・・・・・・・・・・・・・　１９　～　２０

７.地域包括支援センター
（１）令和６年度を振り返り・・・・・・・・・・・　２０
（２）相談件数実績・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（３）総合相談・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（４）虐待相談・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
（５）板橋区苦情・相談事業・・・・・・・・・・・　２１
（６）介護予防・日常生活支援総合事業ほか・・・　２１　～　２２
（７）ケアマネジメント支援・・・・・・・・・・・　２２
（８）地区ネットワーク会議・・・・・・・・・・・　２２
（９）板橋区相談協力員連絡会・民生児童委員連携・　２２
(10) サービス事業者交流会・・・・・・・・・・・　２３
(11) 板橋区小地域ケア会議・・・・・・・・・・・　２３
(12) 認知症の方・家族支援・・・・・・・・・・・　２３
(13) 認知症早期発見・・・・・・・・・・・・・・　２３
(14) 認知症の知識の普及・・・・・・・・・・・・　２４
(15) 医療・介護連携会議・・・・・・・・・・・・　２４
(16) 成増助け合い・支え合いの地域づくり会議・・　２４　～　２５
(17) 支援センターだより・・・・・・・・・・・・　２６

１．社会福祉法人みその福祉会

（１）事業内容

①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

常時介護が必要（介護３～介護５）で、ご家庭での生活が困難な方が長期入所されます。

入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

②短期入所生活介護（ショートステイ）　＊介護予防を含む

特別養護老人ホームに短期入所し、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

③通所介護（デイサービス）　＊介護予防・第１号通所事業を含む

老人デイサービスセンターに通って、施設において入浴、食事の提供等日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

④訪問介護（ホームヘルプ）　＊介護予防・第１号訪問事業を含む

ホームヘルパーが居宅を訪問して、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話を行います。

⑤居宅介護支援事業

介護の知識を幅広くもった介護支援専門員（ケアマネージャー）が、ご利用者の心身の状況や希望をうかがい、要介護度に応じた適切な居宅サービス計画（ケアプラン）を作成します。

⑥地域包括支援センター

地域の高齢者の心身の健康の維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行います。

（２）法人経営理念

- ○　経営資源を最有効活用し、確固たる経営基盤を確立します。
- ○　健全な経営を目指し、事業経営の透明性を確保します。

（３）法人運営理念

- ○　利用者様の尊厳のある生活を支援します。
- ○　利用者様本位のサービスを提供します。
- ○　利用者様に家庭的でゆとりのあるサービスを利用して頂きます。
- ○　利用者様一人ひとりに合った質の高いサービスを提供します。
- ○　常に地域に開かれ、地域福祉の中心的存在であります。

（4）職員構成　　（令和７年３月３１日現在）

	特別養護老人ホーム	短期入所生活介護	通所介護	訪問介護	居宅介護支援事業	地域包括支援センター
管理者	1		(1)	(1)	(1)	(1)
配置医師	1(非)					
地域包括職員						7 1(非)
介護支援専門員					6	
生活相談員	4		2			
サービス提供責任者				3 2(非)		
介護職員	28 10(非)		5 14(非)			
ホームヘルパー				31(非)		
看護職員	4		2(非)			
管理栄養士	1		(1)			
機能訓練指導員	1(非)		1			
運転手			7(非)			
事務員	4 1(非)					

＊1　(非)は非常勤職員

＊2　(　) 内は兼務職員数

（5）実習生・研修生受入状況

①介護福祉士養成課程

日本女子大学人間社会学部	7 月（1 日間）…包括　（1 名） 8 月（19 日間）…包括　（1 名） 9 月（3 日間）…包括（1 名）

②地域・在宅看護学実習

帝京大学医療技術学部	10 月～11 月（3 日間）…包括（5 名）

日本大学医学部附属看護専門学校	1 月（1 日間）…包括（4 名）

③地域包括ケアと高齢者の歯科診療実習

東京歯科大学	11 月～12 月（3 日間）…包括（6 名）

④東京都介護支援専門員実務研修実習

文京くすのき 在宅サービスセンター	1 月～2 月（2 日間）…居宅（1 名）

⑤職場体験学習

赤塚第二中学校 赤塚第三中学校	9 月（3 日間）…デイ（2 名） 1 月（3 日間）…デイ（2 名）

（6）ボランティア受入状況

令和６年度は新型コロナウイルスの感染症予防対策を継続しつつ、徐々に特養フロアについても、ご利用者との距離感を意識しながら、楽器演奏や盆踊り・南京玉すだれなど、イベント型のボランティアの受け入れを再開しました。また、ベッド周りの清掃ボランティアの受入れも開始しました。デイサービスにおいては、健康音楽クラブ・囲碁・将棋・手芸などの定期的なクラブ活動に加え、ハーモニカ・ウクレレと口笛のコラボ演奏、近隣の成増連による阿波踊りや銭太鼓といったイベント的な活動の受け入れが増えました。令和７年度はコロナ禍前の様に多種多様にわたるボランティアの皆様を受入れ、ご利用者の更なる満足度向上を図りたいと思います。

①ボランティア受け入れ総数（延べ人数）【全体】

特別養護老人ホーム	483 名
デイサービスセンター	376 名
地域包括センター	42 名
合　　計	901 名

②ボランティア活動内容内訳　【特別養護老人ホーム】

洗濯物仕分け	297 名
傾聴ボランティア（ｵﾝﾗｲﾝ）	120 名
シーツ交換	44 名
日常生活お手伝い	4 名
イベント等ボランティア	18 名
合　　計	483 名

③ボランティア活動内容内訳　【デイサービスセンター】

日常生活のお手伝い	162 名
クラブ活動ボランティア	137 名
イベント等ボランティア	77 名
合　　計	376 名

④ボランティア活動内容内訳　【地域包括センター】

たんぽぽ弁当お手伝い	33 名
認知症カフェお手伝い	9 名
合　　計	42 名

（7）防災訓練等の状況

令和６年度は、前年度より継続して行っている災害対策の更なる強化を目的としてＢＣＰ（事業継続計画）の確認会および随時見直しを行い、法人全体の防災対策強化および防災意識の向上に努めました。

また、コロナ禍で実施できなかった「合同炊出し訓練」を成増第一町会防災部の皆様と５年ぶりに開催し、薪を使用した災害用かまどによる炊出し訓練を行い、地域との防災体制の強化を図りました。

６月には全館合同にて夜間時における大規模震災を想定した初動訓練を実施し、新人職員を中心に人員の少ない夜間帯でも慌てることがないよう、災害時の初期動作をしっかりと身に付けるための訓練を特養職員・当直者を中心に実施しました。１２月には火災を想定した避難訓練を行い、職員の参加意識も高く、充実した訓練となり、回を重ねることにより課題を一つずつ解決していきたいと思います。

１１月には災害時応援協定を締結した「成増第一町会」と「音羽台レジデンス」「オーネスト成増」「ケアタウン成増」の特養ホーム３施設の四者で音羽台レジデンスにて、志村消防署成増出張所・板橋区危機管理部地域支援係のご協力のもと合同訓練を実施しました。今回はトイレ設置訓練、発電機器操作訓練、防災セミナー、ＡＲ・ＶＲ機器火災訓練を体験しました。合同訓練を重ね、お互い顔の見える関係をこれからも大切に、更なる災害対策の強化に努めてまいりたいと思います。

また、在宅サービス部門は、令和５年度より近隣施設との「成増地区ＢＣＰミーティング」を定期的に開催し、連携体制の構築を進めています。ＢＣＰの対策強化に向け、令和７年度も定期的に開催し、情報交換を行う事で有事の際の協力体制をより具体化していきたいと考えています。

志村消防署主催の「令和６年度２号消火栓操法効果確認会」は残念ながら中止となり、代替えとして開催された「自衛消防スキルアップ講習会」に消防委員を中心に参加しました。災害時の初期動作を身に付けることで各職員の災害意識の向上にも繋がりました。

新入職員に対してはオリエンテーション時に消防委員会が作成した災害時の動画マニュアルの視聴と防火設備・ＡＥＤの使用方法や設置箇所の説明を随時行いました。また、非常用発電設備についても定期的な始動運転や非常用のコンセントの確認、年一回の法定試験を行い、いつ災害が発生しても使用できるよう管理・維持しています。

令和７年度はＢＣＰを基に、災害時に適切な対応が取れるようリアルな訓練を計画し、法人全体の防災対策強化を図りたいと考えます。また、地域との情報交換・情報共有をより意識し強化することで、災害時における社会福祉法人としての役割を果たしていきたいと思います。

（8）ワーキングチーム

令和６年度もリーダー層・中堅職員・新人職員をバランス良く選出し、部署を越えた合同のワーキングチームにて法人の重点課題に取り組みました。

① 職員育成・研修強化チーム
・動画やＺＯＯＭを活用した毎月の研修開催
・中堅職員研修の実施
・動画を含む業務マニュアルの見直し

②地域交流・広報強化チーム
・ブログやインスタグラム、広報誌等を活用した継続的な情報発信
・お弁当の無料配布（コロナ禍のため、こども食堂の開催中止）
・施設紹介動画の更新
・館内掲示板の有効活用

（9）法人研修・勉強会

令和６年度も「職員育成・研修強化ワーキングチーム」が運営主体となり、研修・勉強会を毎月開催しました。新型コロナウイルス感染症の「５類感染症」移行に伴い、外部講師による研修会も２回開催しております。

「事前作成の研修動画を期間内に各自視聴する動画研修」や「ＺＯＯＭによる在宅での研修参加」等の手法は継続し、より多くの職員への展開を心掛けました。また、前述の外部講師による研修会実施や、研修内容に関する現場アンケートで希望の多かった研修を組み込む等、参加率の向上に努めました。

① 法人勉強会

実施月	対象	内　　容
４月	全職員	食事について
５月	全職員	感染症（食中毒）について
６月	介護職員	直接介助（排泄・入浴）について
７月	全職員	ストレス・アンガーマネジメント　※外部講師
８月	全職員	ハラスメントについて
９月	全職員	勤続年数ごとのチーム分けによる各チーム研修報告
１０月	全職員	感染症予防（嘔吐対応）について
１１月	全職員	外部研修発表（看取りなど）
１２月	介護職員	事故・ヒヤリハットについて
１月	全職員	虐待・身体拘束について
２月	介護職員	医療（救急対応）について　※外部講師
３月	全職員	ブランディング活動実践報告・次年度目標について

②法人全体研修

実施月	担　　当	内　　容
５月	感染症予防委員会	※法人勉強会にて
９月	衛生委員会	自転車 安全運転研修会
１０月	感染症予防委員会	※法人勉強会にて
２月	接遇向上委員会	接遇力向上研修

（１０）「チーム・Ｆｉｓｈ！」プロジェクト

令和６年度よりフィシュ哲学の柱と言われている４つのマインドを軸とし、「チーム・Ｆｉｓｈ！」を中心に全職員が一丸となって取り組んでいけるよう、啓発活動からスタートしました。具体的には、全職員の意識付けの強化を目的とした缶バッチを協同で作成し、作成したバッチを身に着けて理念を身近に意識できるよう取り組みました。馴染みやすい雰囲気づくりとして、Ｆｉｓｈボードを利用者様と作成し、ウェルカムボードを作り入職した職員を歓迎する雰囲気を作ってきました。草むしり・落ち葉掃き等の美化活動を始め、接遇員会と協働し接遇週間では仕事に取り組む態度を職員全員で意識する期間を設定しました。

今後も職員が明るく職務に取り組める環境づくりを行ってまいります。次年度は職員間の交流の機会を設け、楽しみながら活気のある職場づくりを行います。

２．介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

（１）令和６年度を振り返り

令和６年度は感染状況や行政のガイドランドに沿って施設内外のイベントを段階的に再開しました。ご利用者の活性を目指し職員一丸となり各種イベントの開催に取り組みました。ボランティアの協力を得て納涼会の盆踊りや出店では和やかなひとときを過ごすことが出来、又、クラシック演奏会ではピアノやバイオリンの生演奏に触れることでご利用者に心の安らぎと豊かな時間を提供することができました。これらの行事はご利用者の生活意欲や笑顔を引き出し、社会的交流の促進にもつながる貴重な機会となりました。さらに、そば打ちや握り寿司のデモンストレーションなど食事のイベントやキッチンカーでは、ご利用者に五感で楽しんで頂けたように感じました。今後も職員のやりがいと働きやすさを大切にしながら、ご利用者お一人ひとりが心豊かに過ごせる生活環境の提供に努めていきます。

（２）入居者の状況

①入居者数

定員：特別養護老人ホーム　８０名
（併設ショートステイ　４名）
【令和７年３月３１日現在入居者　　８０名】

②入居者の推移（月末の性別入居者数）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
男	17	16	16	16	16	16	16	15	16	18	18	20
女	62	62	63	57	55	57	60	60	61	58	61	60
計	79	78	79	73	71	73	76	75	77	76	79	80

③平均入院者数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
平均	3.0	3.4	4.7	5.8	5.4	4.1	2.3	2.6	2.2	1.2	1.3	4.6

④性別･年齢別入居者数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

	65 歳未満	65～69	70～74	75～79	80～89	90～99	100 歳以上
男	0	0	2	3	8	7	0
女	0	0	0	5	21	33	1
計	0	0	2	8	29	40	1

⑤ 平均年齢（令和 7 年 3 月 31 日現在）

全体	男	女
88.4 歳	85.4 歳	89.5 歳

⑥ 性別・階別・要介護度別入居者数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

		要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	平　均	階別平均
2 階	男	0	0	3	3	5	4.18	3.83
	女	0	1	9	12	3	3.68	
3 階	男	0	1	1	5	2	3.89	3.52
	女	2	4	14	15	2	3.43	
計		2	6	27	35	12	3.66	

⑦ 性別・認知症高齢者の日常生活自立度別入居者数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

	自立	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男	0	1	0	2	7	6	4	0	20
女	1	7	1	5	25	6	15	0	60
計	1	8	1	7	32	12	19	0	80

⑧ 特養・短期入所合計宿泊稼働率

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	平均
稼働率	99.1	99.0	97.6	91.2	92.5	91.9	97.2	97.0	98.4	98.5	99.0	98.1	96.6

（3）令和６年度　行事の実施報告

令和６年度は外出行事を再開し、ボランティアの方や地域の方と交流できるイベントを開催することができました。施設内では四季を感じて頂けるような行事を企画し運営しています。

開催月	行事名	内　　容
4月	お花見	２階のテラスにて満開の桜と写真撮影をしました。フロアごとに分かれて桜を見ながらお茶会をしました。
5月	端午の節句	入浴時に菖蒲を入れ菖蒲湯を行いました。 １階ロビーの兜の飾りで写真撮影をしました。
	夏野菜苗植え付け	２階テラスでトマトときゅうりを育てました。
	外出	なりますフェスタに出かけました。文化クラブの作品を出品しました。
	外出	光が丘のローズガーデンに出かけました。
6月	外出	志村学園のレクイベントに出かけました。
7月	七夕飾り	笹飾りを作り、願いごとの短冊や飾りつけを行いました。笹の下で写真撮影をしました。
	キッチンカー	クレープのキッチンカーが来苑し、おやつに購入し召し上がって頂きました。
8月	納涼会	ボランティアの方に参加頂き、スイカ・チョコバナナ・焼きおにぎり・たこ焼きの出店を作りました。フロアの真ん中にやぐらを作り、四葉会の皆さんと一緒に盆踊りを楽しみました。
9月	敬老会	賀寿者のみ式に参加し、２階３階のフロアはオンラインで繋ぎお祝いをしました。おやつには記念の焼き印を入れたどら焼きを提供しました。
10月	運動会	フロアごとに開催しました。赤と白のチームに分かれ大玉送りと玉入れとボッチャで競い合い、良い汗を流しました。
	天神祭り	菅原神社成増天神祭りの大人神輿を、ベランダから鑑賞し、お祭り気分を楽しみました。
11月	秋の作品コンクール	１階ロビーで特養やデイサービスご利用者の作品を鑑賞しました。
12月	クリスマス	１階ロビーのクリスマスツリーで写真撮影しました。 サンタのコスチュームを着た協力企業の方と写真撮影したり、バルーンのプレゼントを貰ったりして楽しみました。
	もちつき	各フロアで開催しました。職員と一緒に沢山のご利用者にもちつきをして頂きました。ついた餅は鏡餅にして飾りました。

1月	初詣	施設内に職員手作りの鳥居、賽銭箱を設置し本格的なケアタウン神社を作りました。1年の無事と平安を祈願しお参りをしました。
2月	節分	職員が鬼となりカラーボールにて豆まきを行いました。鬼と一緒に写真撮影をしました。
	四葉会	５年ぶりにボランティアの方がいらっしゃり、大黒舞いや南京玉すだれを鑑賞しました。
3月	ひな祭り	１階ロビーで雛人形と写真撮影をしました。

（4）食事行事の活動報告

令和６年度は対面のイベントを再開し、体験しながら食事の楽しみをご利用者に提供するイベントを行いました。食費が高騰する中、食事の質が低下しないよう有料で行ったイベントもありましたが、皆様楽しまれたご様子でした。また、調理委託会社の献立作成担当の方にも参加頂く献立会議を活用し、ご利用者のリクエストを反映させたメニューを増やし、献立の幅も出てきました。

生鮮買物	毎週ダイエーの移動販売にて注文を行っています。メニュー表を見て頂き、皆様召し上がりたい物をそれぞれ選んで頂きました。冬場は鍋物、夏場は冷たい麺類を選択できるなど、季節感にあったメニューを提供しました。
行事食	季節の行事にちなんだ料理や特別食は毎月実施し様々な食の提供を行う事ができました。７月の土用の丑と正月の三が日は料理の質の維持・改善のため有料イベントとして、見栄えも良く提供できました。
おやつバイキング	毎週日曜のおやつはバイキング形式としています。平日は、全員共通のゼリーやムースですが、いろいろな食感、味のおやつを選んで楽しんで頂いています。
セレクト食	２種類の主菜の写真から選んで頂く、主菜セレクト食は月に２回実施しています。
駅弁	お弁当箱で有名な駅弁をイメージしたお弁当を提供。旅行に行った感じや昔行った旅行を思い出して頂く機会となりました。（３か月に１回程度）
寿司の日	毎月１回実施。年２回の握り寿司だけでなく、ちらし寿司も好評で皆様楽しみにされていました。
実演イベント	そば打ちと握り寿司のデモンストレーションを再開しました。そば打ちでは、実際にそばを「こねる」「のばす」「切る」を体験し、こねたそばを触って頂きました。昔やっていた話をされたり、いい表情を見ることができました。握りずしは、各フロアのご利用者様から見える所でおかわり分を握りました。寿司ののぼりや職人の法被などいつもと違う雰囲気作りも工夫し、握り寿司を味わってい頂きました。

（5）令和６年度　その他の活動報告

令和６年度は毎月のお楽しみイベントである外食や出前食、サンドイッチランチ等の活動を毎月計画通り実施することができました。令和７年度はご家族やボランティアの参加が促せるような活動を計画していきます。

理美容	月２～３回実施。カット・毛染め・パーマ等。
洋服販売会	衣替えの季節に合わせて洋服の訪問販売会を１階にて行いました。商品を実際に目で見て、手で触れて選んで購入されました。
買物代行	ダイエーの移動販売等にて職員が代行して菓子類や嗜好品、日用品の希望を伺いながら毎週購入しています。
外　食 出前食	月に１回、その月のお誕生日者を中心に３～４名のご利用者を近隣のレストランにご案内し、外出できない方にはお好きなメニューを出前で取り、召し上がって頂きました。
替わり入浴	季節行事の菖蒲湯・柚子湯、入浴剤を使用した森林の湯やラベンダー湯など季節に合わせた入浴を実施しています。
喫茶	月に２回季節にちなんだお菓子や地方のお取り寄せのお菓子を提供しました。
サンドイッチ ランチ	月に１回サンドイッチと季節のフルーツを用意し、テラスや一階スペースで普段とは違う雰囲気で召し上がって頂きました。

（６）令和６年度　特養各委員会の活動報告

ご利用者のより良い生活を支援していくために各委員会でさまざまな検討を行いました。

委員会名	活　動　内　容
生活改善委員会	・排泄係・入浴係は、毎月の話し合いでご利用者一人ひとりに合った排泄のタイミングやパットの使用、入浴ケアの見直しを行いました。入浴介助の負担軽減を目的にウルトラファインバブル発生装置を導入しました。 ・食事係は、法人の栄養管理委員会に参加し、日頃のご利用者の意見や職員の感じたことを委員会時に報告しました。食事の回数や食事の形態などの見直しに加え、食事の席など環境面も定期的に見直し、フロア内でも話し合いをしました。
事故対策委員会	毎月事故とヒヤリハットの集計を行い、職員へ回覧と他部署へも情報共有を行いました。勉強会で実際に起きた事故を内容別に集計したものを用い、事故原因の検証と対策についてまとめ、事故に対する職員のリスク管理の意識づけに努めました。
環境・感染委員会	新型コロナウイルス感染症に加え、季節性の感染症の予防にも努めました。勉強会の他に重要事項は動画や新たなマニュアルを作成し職員間で共有しました。
身体拘束委員会	柵、センサー等の使用状態の確認と適正な使用方法の見直しを定期的に行いました。身体拘束の考え方や知識について会議や勉強会で職員に伝えました。
医療行為安全対策委員会	個々の職員やフロア内で医療行為のマニュアルやリスクを十分理解出来るように多職種で連携を図り検討しました。知識を習得するため勉強会を開催しました。
医療カンファレンス	配置医井上先生と氷川薬局を含めた多職種でご利用者について話し合いを行いました。

（7）令和６年度　特養クラブの活動報告

令和６年度は、フロアで季節を感じられるような作品作りや日常の中でできるレクリエーションを積極的に行い余暇活動の充実に努めました。

クラブ名	活　動　内　容
文化クラブ	季節を感じられる作品（年賀状・書初め・鯉のぼり・クリスマス飾りなど）を作りました。作品はフロア内の食堂や廊下に掲示し季節を感じられるよう工夫しました。また、地域の作品展にも出品しました。 クラブ以外の余暇活動として折り紙・塗り絵・計算ドリル・音楽鑑賞などを準備し余暇時間に楽しんで頂きました。
体操クラブ	日常生活動作の維持向上を目的とした活動を行いました。カラオケ機や動画サイトを使用した体操やリズムゲームで楽しみながら身体を動かすことが出来ました。
書道クラブ	季節に応じた題材のお手本を用意し、多くのご利用者に書道を楽しんで頂きました。完成した作品は食堂や居室に掲示しました。作品展にも出品しました。

（8）令和６年度　ケアカンファレンスの実施状況報告

第１第３水曜日に、原則サービス計画書更新前のご利用者について多職種でカンファレンスを行いました。

・開催回数　　２４回
・対象利用者延人数　１４３人

（9）令和６年度　フロア会議実施報告

全体で行事・委員会などの報告を行い、各フロアでは事前設定した課題について話し合いを行いました。

・フロア会議　　１２回（原則月１回）

３．短期入所生活介護（ショートステイ）

（1）令和６年度を振り返り

今年度は目標稼働率の達成に向け速やかなベッドコントロールを意識し取り組みました。空床情報を積極的に発信し、ご家族やケアマネジャーに様々なケースでのご利用の提案を行いました。その中でも、ご利用者やご家族のニーズに出来る限り応えられるよう対応しました。

また、緊急ショートの受け入れなどを柔軟に対応し新規利用者獲得に努めると共に、個々に合ったサービス内容を計画し提供できるよう各職種の連携強化に努めました。

しかしながら、令和６年度のベッド全体の宿泊稼働率平均は 96.6%と特養及びショートの目標全体宿泊稼働率の 99.0%には、2.4%届きませんでした。来年度は空床ベッドの有効活用を図り、稼働率の向上に努めます。

ケアタウン成増短期入所利用状況（月間）		
項目	令和６年度月平均	令和５年度月平均
利用日数	295.1 日	304.2 日
内男性	83.0 日	59.3 日

内女性	212.2 日	227.4 日
新規利用者割合	12.7%	9.8%
既存利用者割合	87.3%	90.2%

（2）ショートステイの居室配置　（令和７年３月３１日現在 ）

２人部屋/　２１４【男女兼用】
個　室　/　３１７【男女兼用】，３１８【男女兼用】

合計　４床

４．通所介護（デイサービス）

（1）令和６年度を振り返り

様々な取り組みの結果、一日の平均利用人数の予算を毎月達成することができました。これは、活動・イベントの充実、適切な人員配置、業務の効率化、業務の責任分担の見直しなど、職員が意識を高く持ち、諦めずに実行してきたことに尽きると考えます。具体的には、以下の取り組みを実行しました。

① 活動・イベントの充実

開催月	行事	開催月	行事
4月	サンドイッチランチと外出（光が丘公園）	10月	苗植え（園芸イベント）
	手芸イベント（刺し子）		家族参観日
5月	キルト・切り絵展示会（アリエスビル）		童謡まつり（アクトホール）
	元気になりますフェスタ（アクトホール）		外出（朗読イベントボラはぐるまさん）
6月	工作イベント（fish）		外出（書作家小品展　板橋区立美術館）
	外出（赤塚植物園）	11月	クリスマス作り
	ジャガイモ堀（園芸イベント）		外出（光が丘ローズガーデン）
7月	七夕飾り		リハビリパンツ講座
	七夕まつり	12月	季節のフルーツイベント（りんご）
	洋服販売		紅葉散策
	キッチンカー（クレープ）		アートギャラリー見学（アリエスビル）
	外出（板橋区立美術館）		絵馬作り
	ガーデニングイベント		スワッグ作り
	美空ひばり歌唱会（オンラインレク）		家族参観日
8月	オリンピック観戦		ゆず湯
	すいか割大会		カラオケ紅白歌合戦
	夏祭り		お楽しみ抽選会
9月	認知症イベント(アリエスビル)	1月	初詣（菅原神社）
	花の植えかえ（園芸イベント）		初詣・おみくじ（施設イベント）
	ボイスサイズ（誤嚥予防体操イベント）		鏡開き
	季節のフルーツイベント		節分飾りづくり
	敬老会	2月	外出（紫音♡ここ展　アリエスビル）
		3月	梅見ドライブ
			外出（ひな人形　郷土資料館）
			施設花見　甘酒

＜定期イベント＞
・サンドイッチランチ・ネイル・カラオケ大会・ボッチャ大会
・オンラインレク・志村学園レク・健康音楽クラブ

＜ボランティア行事＞
・マジックショー・篠笛・ハーモニカ・朗読・銭太鼓・盆踊り
・バンド・口笛とウクレレ・手品・手芸・ジャズ・阿波踊り

② サービス向上・継続
・スーパーブレイン（韓国の認知症対応プログラム）の事後評価を実施し認知機能の維持、または向上を示す結果が得られました。
・「板橋のいっぴん（サンドイッチ）」や東京の老舗弁当を提供するイベントを開催しました。普段とは違う食の楽しみでご好評をいただきました。
・ご家族・ケアマネジャー参観日の開催が定着できました。活動の様子の写真を定期的に入れ替えて掲示し日頃の様子を感じていただきました。
・ご利用者人数を増やすため居宅包括会議に参加し、得た情報に基づきご利用者とご家族のニーズに合わせたイベントやサービス内容を検討し改善しました。

③ 業務改善
・添乗業務や計画書作成業務の切り出しを行い、日課表（人員配置表）に基づき在宅サービス課の課員をフレキシブルに配置する事で、必要な業務や時間帯に人員を充てることができ、適正化と効率化を図ることができました。
・業務分担を業務の責任分担の視点から見直しを図ったことで、非常勤職員を含め様々な取り組みを具体的に実行することができました。
・ドライバーの適性検査を導入し、各ドライバーの運転の傾向を把握することで、安全運転の指導と意識の向上に繋げることができました。

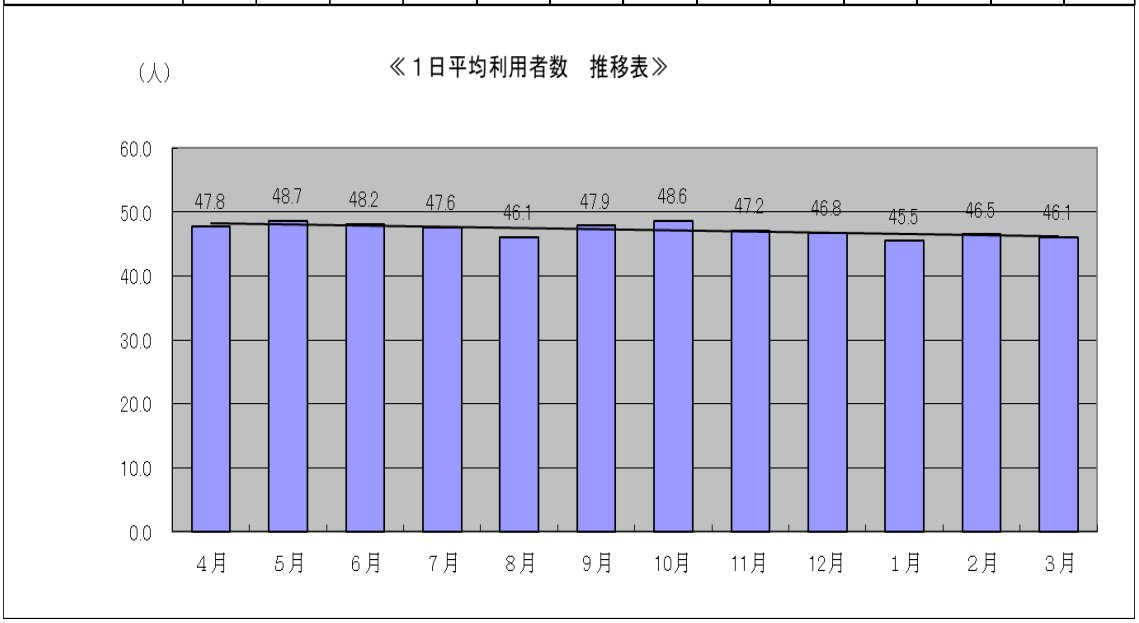
④ 地域参加
・都立志村学園（介護・コミュニケーションコース）とのレク交流や地域イベント（元気になりますフェスタ等）参加、積極的なボランティアの受け入れは継続して実施し、今後も社会福祉法人として地域の役割を担っていきます。
・地域公益活動の一環として、送迎車輌を使った移送サービスを、成増高齢者在宅サービスセンターと音羽台レジデンスと共同で６回実施しました。地域にお住まいで、買い物の移動に困っている方々に少しでもお役に立てるよう、継続的に実施していきます。

（２）利用者状況　実績

令和６年度においては、実人数 219 名（前年度比 89.7%）、１日当たりの平均利用者数 47.3 人（同 105.3%）と予算を達成しました。11 月から体調不良による欠席や入院者の増加の影響で、実人数は減少しましたが、利用曜日の増回や、利用予定者が少ない日にイベントを企画し臨時利用の促しなどにより、平均利用人数は令和５年度を上回ることができました。ご利用者の延べ人数の増加に伴い、送迎と入浴の対応が円滑の行えるよう、利用曜日や時間の調整を積極的に行いました。その結果、１日の入浴者数の平均が令和５年度の 28.6 人と比べ 1.7 人増加の 30.3 名と、30 名を超えました。

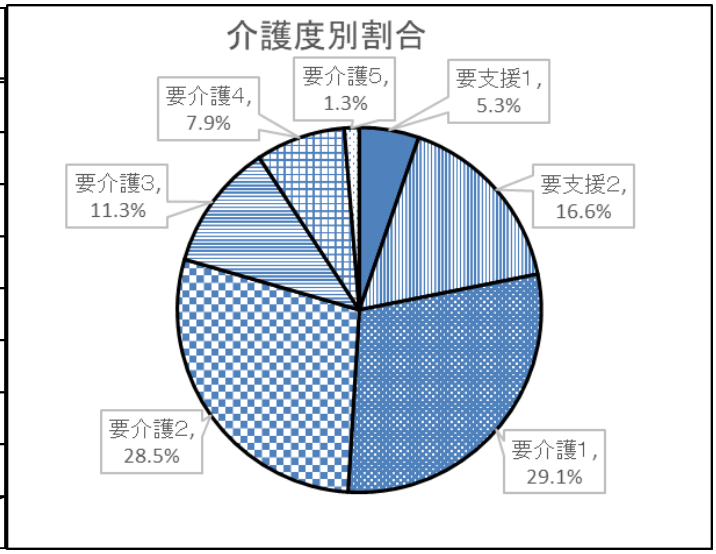
①月別ご利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年 間
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	308
実人数	162	163	165	161	158	159	161	156	153	153	152	151	219
延利用人数	1243	1314	1204	1286	1245	1198	1313	1226	1122	1093	1117	1199	14,560
延入浴人数	799	837	775	831	796	786	855	784	711	695	708	752	9,329
入浴割合(%)	64.3	63.7	64.4	64.6	63.9	65.6	65.1	63.9	63.4	63.6	63.4	62.7	64.1
一日平均(利用人数)	47.8	48.7	48.2	47.6	46.1	47.9	48.6	47.2	46.8	45.5	46.5	46.1	47.3
一日平均(入浴人数)	30.7	31.0	31.0	30.8	29.5	31.4	31.7	30.2	29.6	29.0	29.5	28.9	30.3



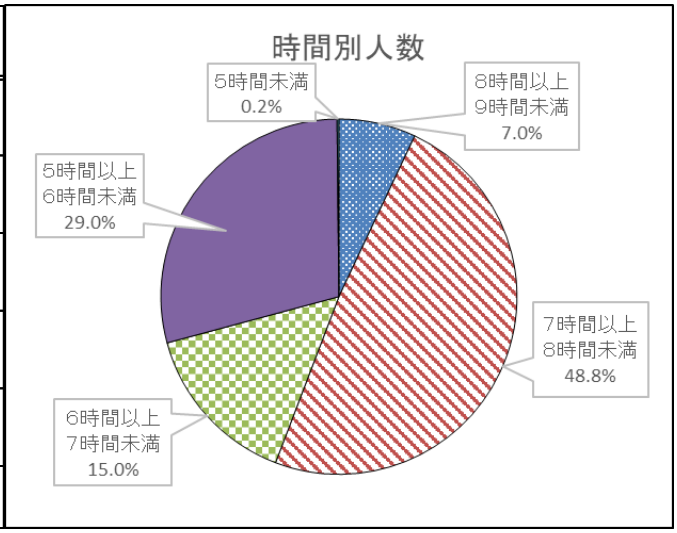
②要介護度別　ご利用者内訳（令和７年３月末現在　実人数）

介護度	介護度別実人数	割合(%)
要支援１	8	5.3%
要支援２	25	16.6%
要介護１	44	29.1%
要介護２	43	28.5%
要介護３	17	11.3%
要介護４	12	7.9%
要介護５	2	1.3%
合　計	151	100.0%
平均介護度	2.0	



③利用時間別　ご利用者内訳（令和７年３月末現在　延人数）

提供時間	時間別延人数	割合(%)
８時間以上９時間未満	84	7.0%
７時間以上８時間未満	585	48.8%
６時間以上７時間未満	180	15.0%
５時間以上６時間未満	348	29.0%
５時間未満	2	0.2%
合計	1,199	100.0%



④　年代・性別　ご利用者内訳（令和７年３月末現在　実人数）

（歳）	男性	女性	計	割合（%） 男性	女性	計
90～	10	43	53	6.6	28.5	35.1
85～89	11	45	56	7.3	29.8	37.1
80～84	5	23	28	3.3	15.2	18.5
75～79	4	4	8	2.6	2.6	5.3
70～74	1	4	5	0.7	2.6	3.3
65～69	0	1	1	0.0	0.7	0.7
～64	0	0	0	0.0	0	0.0
計	31	120	151	20.5	79.5	100.0

⑤　地域別　ご利用者内訳（令和７年３月末現在　実人数）

地域	実人数 今年度	前年度
成　増	79	78
赤　塚	44	56
赤塚新町	12	10
大　門	1	1
徳　丸	1	1
三　園	3	2
高島平	6	3
四　葉	0	0
練馬区	0	0
和光市	5	6
合　計	151	157

５．訪問介護（ホームヘルプ）

（１）令和６年度を振り返り

令和６年度の活動状況は、利用者実人数 244 名（前年度 257 名）、派遣延回数 14,708 回（同 16,431 回）、派遣延時間約 12,347 時間（同 14,533 時間）でした。新規利用者数は 83 名（同 70 名）。内訳は要介護 31 名、要支援 38 名、保険外 14 名、支援終了者は 54 名（同 65 名）でした。令和５年度と比べ新規利用者数は増加し支援終了者は減少しましたが、利用者実人数、派遣延回数、派遣延時間ともに減少となりました。令和５年度に減少した利用者数を目標の水準に戻すことができず、支援時間についても身体介護が 10～15 分、生活援助が 30 分程度の短時間の支援が増加したことにより派遣延時間が伸びませんでした。年度を通しての予算達成率は 84.2%と大きく目標を下回りました。

令和６年度は①「デイサービスとの協力体制の強化・推進」②「人材確保に向けた取り組み」③「生産性の向上（業務改善）」を重点目標として達成に向け事業活動を行いました。各重点目標の活動内容、評価、課題は以下の通りです。

① デイサービスとの協力体制の強化・推進

【活動内容・評価】

令和６年度は登録ヘルパーの空き時間の活用によるデイサービスのフロア業務・送迎車の添乗業務のほか、訪問介護職員にて通所介護計画書の作成の協力を行いました。計画書の作成状況の確認、ケアマネージャーへのケアプラン請求等もまとめて行うことで効率化を図り、計画書作成の滞りを解消することができました。今後も継続して協力を行うことにより、相談員業務を始めとした課全体の負担軽減・残業削減を目指していきます。

また、今年度も課合同での研修を実施しました。各部署で作成したＢＣＰを使用した図上訓練を行い、ハザードマップなどを参考に地震発生時の近隣地域の危険個所やそれぞれの対応の確認を行いました。お互いに地域へ出る業務があり、普段利用している道の危険性などを知ることができました。

【課題】

登録ヘルパーによるデイサービス業務のサポートが定着している一方、デイサービス職員によるヘルパー業務のサポートについては一部の職員が支援に入るだけにとどまっています。今年度、ヘルパーステーションの勤務体制を見直し、土曜日の支援や電話対応の業務をデイサービス職員が行うことにしました。現在は常勤職員が主に対応していますが、今後は非常勤職員によるヘルパー業務も積極的に増やし、利用者の獲得や支援依頼に対応できる体制を整えます

② 人材確保に向けた取り組み

【活動内容・評価】

令和５年度に行った地域向けのイベント、「親子で学べる介護体験」を令和６年度も行い多くの方に参加して頂き、その中で保護者向けのお仕事説明会やセミナーを行い、訪問介護の仕事を知ってもらう機会を作りました。また、地域包括支援センターが行った小学校での車椅子体験会にも参加し、地域との交流機会を持ちました。板橋区の「介護に関する入門的研修」の受講生に向けて行っている就労相談会にも参加し２名の方にヘルパー登録をしていただくことができました。

【課題】

「親子で学べる介護体験」についてはイベントとして地域に浸透している感触を得られつつありますが、人材の採用や初任者研修の受講などにはつながっていません。就労意欲のある方の掘り起こしや訪問介護の魅力を知ってもらう方法を考え、実行

していく必要があります。

③ 生産性の向上（業務改善）

【活動内容・評価】

事業所内での情報共有に使用しているビジネスチャットであるラインワークスによる外部の事業所のケアマネージャーとの連携を目指していましたが、機能的に難しい部分があり想定した利用方法ができないため断念しました。支援報告やテンプレートを使用した記録方法については、音声入力やタッチペンを使用した手書き入力を行うことにより事務所内で行っていた記録業務を訪問先や外出時でも行えるようにしました。事業所内での記録業務の削減につなげることができました。

【課題】

音声入力による記録の作成を登録ヘルパーにも広げていく必要があります。スマートフォンでの文字入力が苦手な登録ヘルパーもいるため音声入力の方法を示すことにより記録の入力方法の選択肢を広げていきます。

【令和７年度に向けて】

令和７年度はデイサービスの人材と協力してマンパワーの有効活用を進めていきます。配置基準を上回る時間帯のデイサービス非常勤職員によるヘルパー支援を積極的に行うことにより稼働の回復・向上を目指します。またタイミーなどのスポットバイトを紹介するアプリなどへ募集を掲載し短時間での就労を受入れることにより稼働を上げ、人材の獲得にもつなげていきます。

外国人介護人材による訪問介護業務の解禁への対応については令和６年度より情報収集を行ってきました。訪問介護業務を行うためには初任者研修修了などの資格取得のほか介護技術やコミュニケーション能力の向上が重要であり、まずは特養やデイサービスでの受け入れをすすめることが必要です。

生産性向上についても部内の業務の見直しや情報収集を行い効率的に仕事を行える環境を作っていきます。

（２）ヘルパーステーション活動状況

	令和６年度	令和５年度
利用者実人数	244 名	257 名
派遣延回数	14,708 回	16,431 回
派遣延時間数	12,347 時間	14,533 時間

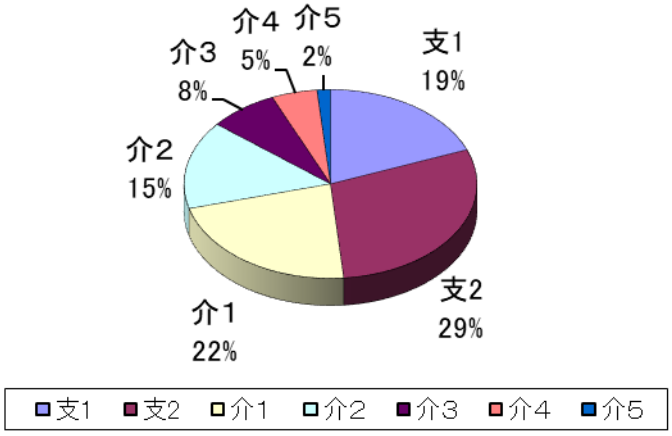
（３）月別ヘルパー活動状況

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合計
人数	153	144	152	146	150	150	155	151	154	152	156	157	1,670
回数	1,287	1,263	1,150	1,225	1,264	1,222	1,333	1,247	1,175	1,131	1,133	1,278	14,708
時間	1,118	1,077	973	1,027	1,061	1,026	1,107	1,036	982	944	942	1,054	12,347

（４）要介護度別活動状況内訳（利用者数）

	令和６年度	令和５年度
支１	323	299
支２	498	597
介１	376	345
介２	255	301
介３	129	167
介４	85	52
介５	25	73
計	1,691	1,834

介護度別活動状況内訳
（令和６年度）



（５）活動内容内訳

		令和６年度		令和５年度	
		件数	割合	件数	割合
要介護	身体介護 ※複合含む	5,186	35%	5,588	34%
	生活援助	4,652	32%	5,326	32%
要支援	訪問サービス	4,136	28%	4,689	28%
保険外		734	5%	828	6%
合計		14,708	100%	16,431	100%

（６）部内研修

研修日	研修内容	参加人数
令和６年４月	ご利用者別個別研修	５名
令和６年６月	ご利用者別個別研修	３名
令和６年２月	高齢者の支援と薬	20名

６．居宅介護支援事業

（１） 令和６年度を振り返り

特定事業所加算（Ⅱ）の算定事業所として地域で質の高いケアマネジメント提供のため体制を整備し、担当件数（４０件）維持を目標に積極的に新規ケースの受け入れを行いました。

（２）事業計画実施状況

① 適正件数の維持と法人内での連携強化

月別新規居宅サービス計画届け出件数は（表１）の通りです。４月より職員が１名、５月よりさらに１名増員。施設入所や入院により終了ケースが多く、新規ケースの受け入れ件数を増やし適正担当件数維持に努めました。

利用者特定事業所集中減算の当事業所利用率（表２）は、訪問介護５５%、通所介護５６%、短期入所介護７６%となっています。訪問介護、通所介護ともに利用率がほぼ昨年同様です。短期入所生活介護はケアプランに位置付ける全体件数が増加傾向です。短期入所生活介護の利用から施設サービスを利用されるケースが多くなっています。今後も、法人内に訪問介護、通所介護、短期入所生活介護が併設している強みを活かし、各サービスとの連携を強化していきます。

加算項目別件数（表３）については、入院や入所により短期間で終了するケースが多く、目標担当件数を維持のため新規契約時に算定する初回加算が昨年の２倍となりました。今後も積極的な新規ケースの受け入れを行います。

特定事業所加算Ⅱの算定維持のため、各職員が研修計画を作成し外部研修に参加しました。研修参加後は、週１回の定例会議で、研修に参加した職員から伝達研修を行い事業所全体でのスキルアップが図れるように取り組みました。

【参加研修】

４月　在宅での看取り	１０月　難病について
５月　適切なケアマネジメント手法	１１月　生活困窮者支援
６月　認知症について	１２月　虐待について
７月　意思決定支援	１月　ハラスメント研修
８月　ケアマネジメントのプロセス	２月　障がい者支援
９月　ヤングケアラー	３月　成年後見制度

② 業務の効率化を目指してＩＣＴの活用

新規ケースの受け入れ件数が多く帳票作成などの事務作業量が増加し、効率的に実施するためにＩＣＴの活用を行いました。事業所内での事務作業時の音声入力や訪問時のタブレット端末の持参により作業時間を短縮することができました。

ケアプランデータ連携システムの利用継続により給付管理業務を効率的に実施しました。

③ 地域との連携強化

主任ケアマネジャー４名が赤塚地区居宅ケアマネジャー連絡会に参加し、地域のケアマネジャーのスキルアップのための勉強会に、包括支援センターとの協働事業として参画しました。

地域で開催している認知症カフェに参加し、認知症、在宅介護のことなど相談を受け地域での活動も継続しています。

迅速なサービス調整が必要なケースでは、地域の医療職やサービス事業所とＩＣＴを活用して情報共有を行いました。

④ 人材育成とチームとして働く快適な環境づくり

支援困難ケースについては、週１回の事業所内会議や朝のミーティングで相談を行い、主任ケアマネジャーが中心となり事業所全体で検討し、一人で抱え込むことがないように努めました。主任ケアマネジャーが４名在籍している強みを活かし支援困難ケースは事業所全体でケース検討を行い二人体制で対応しました。

⑤　法人内の在宅サービス部門との連携強化

法人内に訪問介護、通所介護、短期入所生活介護が併設している強みを活かし緊急対応や迅速な情報共有で在宅サービス部門でのチーム支援の提供に努めました。

特に介護者の急用や体調不良時に短期入所生活介護のスムーズな利用を支援することができた結果、利用率も増加しています。

特定事業所加算Ⅱ算定事業所として支援困難ケースの受け入れは算定要件であり併設している地域包括支援センターとの連携を強化して頻回なケース検討を行いながら支援を行いました。

月別新規居宅サービス計画届出件数（表１）　　単位：（人）

性別/月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計
男性	2	7	0	4	7	4	5	2	3	6	4	7	51
女性	7	4	8	9	7	7	4	8	7	12	12	11	96
合計	9	11	8	13	14	11	9	10	10	18	16	18	147

特定事業所集中減算による当事業所の利用率（表２）　　単位：（件）

	全体件数	ケアタウン成増	当事業所の利用率%
訪問介護	61	33	55%
通所介護	107	60	56%
短期入所生活介護	116	88	76%

加算項目別件数（表３）　　単位：（件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
入院加算Ⅰ・Ⅱ	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
退院・退所加算	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	2	2
初回加算	8	10	7	13	12	10	9	9	10	17	14	16
事業所加算Ⅱ	162	169	172	170	189	181	183	176	180	195	205	222
通院時情報連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

７．成増地域包括支援センター

（１） 令和６年度を振り返り

当センター担当地域は、成増１丁目～４丁目、赤塚３、４丁目、赤塚５丁目の１８番～３６番となっています。

板橋区の高齢者数は 131,593 人（令和６年１０月現在）、高齢化率 22.8%であり、当センターの高齢者数合計 6,968 人（65～74 歳 3,053 人、75 歳以上 3,915 人）、高齢化率は 18.7%となっています。高齢者人口のうち介護保険の認定を受けている方が 1,379 人でそのうち在宅でサービスを利用している方が 616 人となっています。

地域包括支援センターの主な機能として、①介護予防マネジメント、②総合的な相談支援、③包括的・継続的ケアマネジメント、④虐待防止・早期発見等の権利擁護があります。当センターでは、社会福祉士、地域保健等の経験をもつ看護師、主任ケアマネジャー、ケアマネジャーなど、８名体制（１名居宅介護支援事業所兼任、令和７年３月末時点）で業務を行っています。

（２）相談件数実績

令和６年度の訪問による相談者（※以下の数字延べ人数）が 1,917 名、来所が 365 件、電話が 6,328 件となっています。

相談は来所、訪問共に増加しています。

相談内容では、昨年に引き続き介護サービス関連についての相談が最も多くなっています。続いては医療関連、生活・家庭相談、介護保険要介護認定相談の順となっています。全体的に内容は多岐に亘っており、今後も相談件数の増加が想定されます。

（３）総合相談

地域高齢者の生活に関わるあらゆる相談に応じています。介護保険制度（申請からサービス調整含む）、介護予防・日常生活支援総合事業についての相談が多く、関連して医療・保健相談が続いています。障がいや難病をお持ちの方、経済的な支援を必要としているケースなどは、その他の制度の活用や各関係機関へのご案内・調整等を行い、安定した生活が行えるよう支援しています。

経済的な問題やキーパーソンが不在の独居高齢者の相談なども増えており、地域の民生児童委員や各関係機関と連携しながら対応を行っていますが、支援調整が長期化するケースも多くなっています。問題が複雑化しているケースについては、センター内で方針を検討しながら、支援にあたっています。

平成２８年１０月より、窓口相談やサロン訪問時などに、希望者に「見守りキーホルダー」をお渡ししています。また、相談支援時に必要性が高い方と判断される方には、積極的に登録を勧めています。令和７年３月末までで 1,023 名が登録しており、内、令和６年度は 138 名の新規登録となりました。地域住民からの身元不明等高齢者の問い合わせ対応の他、保護・身元不明に関する警察・病院からの問い合わせ時等に、見守りキーホルダーの番号で身元の照合を行い、必要に応じて、緊急連絡先へ連絡を行っています。

（４）虐待相談

令和６年度、１件の相談がありました。通報者は地域包括支援センター、虐待者は別居家族、虐待種別は経済的・心理的虐待でした。件数は昨年度より減少していますが、虐待に至るおそれのあるケースについては、地域のケアマネジャーより報告・相談があり、助言や訪問支援等を行っています。

いずれのケースもケアマネジャーや病院関係者、区の担当部署、ご親族と連携をとりながら見守りや緊急対応、介護保険サービスの調整など必要な支援を行いました。現在も引き続き関係機関や支援者と連携をとりながら、調整・支援を進めています。

（５）板橋区苦情・相談事業

令和６年度、介護保険苦情・相談記録報告書による要望・クレームの報告は０件でした。担当地区の居宅介護支援事業所やサービス事業所に対する要望や事業所変更等のご相談は引き続きあがっています。ケアマネジャーやサービス事業所とご利用者・ご家族の両者の意見を聴取して、調整を行っています。

（６）介護予防・日常生活支援総合事業及び予防給付管理について

板橋区が開催する令和６年度元気力測定会は前期、後期ともに実施し成増地域は８名が事業対象者となり、その他、窓口や小集団で７４件の基本チェックリストを実施しています。令和４年度から始めた小集団に向けての基本チェックリストを含む測定会や介護予防に資する情報提供は１６件実施しています。チェックリスト該

当者には短期集中コースや住民主体型サービスを紹介し、令和６年度は２２名が参加につながっています。

予防給付管理に関しては、前年と比べるとほぼ横這いで推移しています。

【総合事業・介護予防サービス利用者給付件数】　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防支援	128	129	135	135	136	136	136	138	137	142	143	143	1641
介護予防ケアマネジメントA	101	109	111	113	105	108	112	112	115	110	108	110	1316
〃　B	2	0	0	0	0	0	0	1	3	5	6	5	45
〃　C	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	1	1

（令和７年３月末現在）

※介護予防ケアマネジメントとは総合事業訪問型サービス・通所型サービスのみを対象としたプランとなります。

（７）ケアマネジメント支援

ケアマネジャーからの日常的な個別相談や関連機関との連携に関わる相談を行っています。相談内容としては、以下に記載する内容でケアマネジャー支援を行っています。経済的困窮に対しては、福祉事務所等の関係機関やご家族との調整についての助言を行いました。また、家族の介護負担軽減についての助言や、認知症の周辺症状の問題については、対応や医療機関への相談や調整の助言を行いました。ケアマネジャー交代等の支援も複数名行っています。ケアマネジャー支援の内容は多岐にわたり、区に報告書を上げたケースは４４件ありました。

地域のケアマネジャーとの顔の見える関係作りの場であるケアマネルームは三園地域包括支援センターと合同で開催しました。内容としては、１回目は「難病の方の事例検討や難病申請等」について行い、２回目は「発達障害に関する基礎知識」について行っています。

（８）地区ネットワーク会議

地域で高齢者等を支援する機関のネットワークを強化するため、成増地区（成増・三園）として開催しています。令和６年度は「地域つながり隊の取り組みについて」学び、地区ネットワーク委員のほか、地域の主任ケアマネジャー等も参加いただき意見交換を行いました。

（９）板橋区相談協力員連絡会・民生児童委員の皆様との連携について

民生児童委員、相談協力員薬局、相談協力員接骨院の方々を対象として、地域のネットワーク強化および情報共有を目的に年１回程度、連絡会を開催しています。

令和６年度も例年どおり三園地域包括支援センターと合同で相談協力員連絡会を行いました。

テーマは「亡くなった時に行わなければならない手続きについて～生前に準備できること～」と題し、第一部では、地域の行政書士の先生をお招きし、死後事務や生前に行える準備・心構えについてご講義頂きました。第二部では、地域内での連携強化を図るために、地域のケアマネジャーを交えて、グループワークを行いました。

また、「民生児童委員と地域包括支援センターの情報交換会」を令和６年度も引き続き開催し、民生児童委員による訪問調査結果・高齢者世帯の情報共有を行いました。要支援者の早期発見、民生児童委員との連携を深めることができました。

（１０）サービス事業者交流会

令和６年度事業者交流会は、地域のケアマネジャーを対象に赤塚地区の地域包括支援センター（成増・三園・下赤塚・徳丸）と赤塚地区居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーとの合同企画で１回開催しました。

「多問題を抱える方の事例を用いて、関係機関との連携を考える」をテーマにケアマネジャーを対象にして開催しました。２つの事例を基にグループワークを行い、オブザーバーとして、健康福祉センター、福祉事務所、障がい者就労センター、障がい者支援係、療養相談室の方々を迎え、それぞれの機関の役割や対応方法を学んでいきました。多問題に関して相談できる窓口の紹介や、地域のケアマネジャーとそれぞれの機関との関係性構築を図ることができました。

（１１）板橋区小地域ケア会議

高齢者個人に対する支援の充実とともに、それを支える基盤の整備を行う有効な手段として「板橋区小地域ケア会議」を開催しました。

「認知症と精神疾患を抱える高齢者のための包括的支援のサポート体制について」をテーマに開催しました。会議では多くの介護・医療関係者の方にご参加いただくことができました。

認知症と精神疾患を抱える高齢者が地域で暮らし続ける為に活用できるサービスや相談窓口、連携方法、協力体制などを参加者や地域の方々と共有することができました。

（１２）認知症の方・家族支援

平成２１年６月に発足した「認知症の方を介護する家族会　きずな」は、令和年６度も毎月開催しています。新規参加者は４名。毎月６名から１０名の参加があります。家族会の参加者の多くが高齢になり運営側の負担がありましたが、毎月赤塚地区の地域包括支援センターが参加することにより、運営の支援や助言を行っています。参加者からは「どうしてよいかわからなかったことを皆様の意見が聞けて良かった」「苦しい気持ちを話すことができて良かった」等、のお話がありました。

当施設で毎月第３日曜日に認知症カフェを開催しています。毎月１０名程度の方の参加があり、介護保険についてのミニ講座や介護予防についての講座や参加者同士の情報交換、職員による個別の相談を行っています。

今後も、認知症の方が住み慣れた地域生活が継続できるように、認知症の方やその家族の支援を継続していきます。

（１３）認知症早期発見

成増地域センター・成増３丁目集会所を会場に、認知症の早期発見を目的として「もの忘れ相談医」による認知症に関する個別相談を行っています。１回あたり１名～２名で、計３回実施されています。また、他の地域包括支援センター担当のもの忘れ相談でフォローの必要な方のご相談を行い必要な支援を行っています。

認知症初期集中支援事業として、認知症サポート医と地域包括支援センターの福祉職、看護職がチーム員となり認知症の方とその家族の支援について検討会議を行い、令和６年度は継続ケース２件、新規ケース４件の検討を行い、うち１件の訪問を行い、認知症の診断や介護保険の申請からサービス調整などに繋げています。

毎月、警察や認知症疾患医療センターの方にも参加をしていただき、多職種での検討を行っています。今後も本事業の活用とともに、地域住民やケアマネジャーの協力を得て、認知症の方に必要な医療や支援を届けたいと思います。

（１４）認知症の知識の普及

認知症の知識の普及として「認知症サポーター養成講座」を計３回開催しました。成増図書館と合同開催したイベントで参加者１１名、成増小学校第４学年（９７名）、新規に赤塚小学校第３学年（１１１名）に対して行いました。養成講座は対象者に合わせて内容を検討して行っています。また、地域のキャラバンメイトや認知症家族会、地域の方にもご協力をいただいています。

今後も認知症の症状や特性の周知だけでなく、認知症とともに生きる人が希望を持って暮らしている様子や、認知症の進行を遅らせるための日々の活動（認知症予防）についても知っていただけるよう地域の皆さんへの啓蒙活動を行っていきます。

（１５）医療・介護連携会議

地域の病院の相談員や医療施設の相談員、地域包括支援センター職員が、医療介護の連携が円滑に行えるよう医療・介護相談員交流会を行いました。グループワークでは連携の仕方や情報交換を行いました。

また、昨年から再開した赤塚地区医療介護連携会議では、地域の医療介護の関係者など８３名の参加がありました。地域包括ケアシステム構築の推進のため「制度のはざまにある困りごとについて」グループワークを行い交流や意見交換を行っています。

（１６）成増助け合い・支え合いの地域づくり会議

平成２８年度成増地区で勉強会を行い、その後「支え合い会議成増」が立ち上がりました。毎月１回地域のまなぽーと成増や集会所等をお借りし、会議を継続しています。会議前の打合せ等では会議ＺＯＯＭ等のソフトを引き続き活用しています。

地域への情報発信はホームページのブログ、公式ＬＩＮＥアカウント、町会・自治会の掲示板の３本柱で行っています。それ以外にも近隣の公共機関や郵便局、企業団体に配布・設置依頼を継続しています。ＬＩＮＥアカウントの登録者は１８０人を超え、若い世代とのつながりだけでなく、地域で活躍する方や企業担当者と個別につながりコミュニケーションをとることで新たな活動創出のきっかけや迅速な情報共有につながっています。令和６年度の変更点としては「活動のお知らせ」を定期配布ではなく、イベント後の報告の際、作成しています。成増の情報マップは、令和５年に再編した居場所編を地域に配布継続中です。

地域活動は新規拠点の追加、支え合い会議からの独立など様々な変化がありました。

１つ目は「杏の会」です。季節の折り紙を作る「杏の会」は運営側が８名ほどに増え、参加者も１回１０～１５名ほどとなり安定した運営が可能になったことから、福祉の森サロンに登録し、支え合い会議から独立しての活動が始まりました。

２つ目は「スマホ相談会」です。令和４年９月に始まった相談会は月１回定期開催を続けることができています。既存の協力団体から定期的にサポートを受けることができていますが、担い手不足は続いています。今後、板橋区社会福祉協議会が手掛ける「ジョブボラ」も活用し協力者を増やしていく予定です。地域の声から開催場所は令和７年１月より長太郎不動産とスキップ村商店街事務所の２カ所となり毎月交互に会場をお借りしています。１回１５名ほどの参加があります。

３つ目の「チームオレンジミニ劇団なります」も「杏の会」と同様に支え合い会議から独立し地域の認知症サポーター養成講座や声掛け訓練などの運営をサポートするなど地域包括支援センターと協力し様々な場で活躍されています。

４つ目の「ほっこりなりりん」は、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりを目標に令和５年４月から活動していますが、お借りしていた会場の喫茶店が閉店となり別会場へ移動しています。参加者も増えてきたことから開催を月２回に増やし、会

場はジョナサン成増駅前店と成増南コスモホールをお借りして行っています。各回１５名前後の参加があり、地域の居場所として定着してきています。

支え合い会議成増主催のシニア向けイベントは、介護予防をテーマにした「元気になりますフェスタ」と認知症をテーマにした「認知症、やさしい街では認地笑」はそれぞれ２００名前後の参加です。令和６年で３回目を迎え毎年開催の企画となっています。そのほか地域で開催されるイベントは昨年も企画した２カ所に加え、「まなぽーと成増フェスタ」と「成増幼稚園フェスタ」に初参加しました。地域に「支え合い会議成増」を知ってもらう機会をもっと増やしたほうがよいという意見が会議で多くあがり、今後も毎年参加する予定となっています。

■広報活動

	開催日	内容
活動のお知らせ(月間)	毎月１回	毎月１日～１５日まで町会・自治会の掲示板に掲示
なりりん ニュースレター	不定期	イベントに開催後など活動報告時に作成
公式ＬＩＮＥの配信	毎月４～５回更新	イベントの告知やシニアクラブ、サロン等が開催する勉強会等の告知
ブログ	月１回	会議終了後話し合いの様子や活動の内容を報告

■地域活動

	開催日	内容
スマホ相談会	毎月１回	スマホ基本操作の質問を受け付け
ほっこりスポット	毎月２回	誰もが気軽に立ち寄り、おしゃべりできる場を開催

■年間イベント　★支え合い会議成増主催のイベント

	開催日	内容
★元気になりますフェスタ	５月	介護予防をテーマに開催
まなぽーと成増フェスタ	５月	地域に向けて会議や活動の周知
★認知症やさしい街では認地笑	９月	世界アルツハイマー月間に合わせて認地笑かるたの展示や普及啓発の講座を企画
板橋農業まつり	１１月	保護司団体と協同で赤塚地区支え合い会議の普及啓発
成増地域センターまつり	１２月	ＰＲコーナーにて支え合い会議に関してのアンケートや活動報告等の資料配布
成増幼稚園フェスタ	３月	杏の会のつながりから参加。若い世代へ会議や活動の周知。

（１７）支援センターだより

赤塚地区地域包括支援センターでは年４回、支援センターだよりを発行しています。地域住民の方々へ配布する他、地域の回覧板を活用して、支援センター区域内にある町会に回覧をしています。

年間発行回数	発行月	内容
４回	６月(夏)	医師によるもの忘れ相談
	９月(秋)	もっと知ろう認知症　９月は認知症月間
	１２月(冬)	ご存知ですか？補聴器の助成が利用できます
	３月(春)	高齢者見守りキーホルダー　お持ちですか？